

「ガンマ線バースト」

超新星爆発が起源

東大・広島大など

電磁波の一種のガンマ線を10秒前後の間に非常に強く放出する宇宙最大の爆発現象「ガンマ線バースト」の起源の一つが、大規模な超新星爆発であることがはっきりした。東大と広島大、国立天文台などの国際共同研究チームがする望遠鏡（米ハワイ島）を使い、理論的に裏付ける観測に成功し、27日付の米科学誌「サイエンス」に発表する。

ガンマ線バーストの起源は長らく謎とされてきたが、03年3月には発生時刻と位置が、目で見える光による極超新星爆発の観測と一致。他の極超新星爆発の観測と合わせると、ガンマ線は極超新星の両極方向に放出され、酸素が赤道方向に放出されることが理論モデルができた。